



溶融亜鉛めっきに関する JIS 規格の改正について

○試験方法が「付着量」から「膜厚」へ変更されました。

JIS H 8641 の改正による試験方法の変更に伴い証明書の内容が変更されます。
旧試験の証明書が発行できなくなりますのでご注意ください。

旧	新
試験方法 JIS H 0401	試験方法 JIS H 0401
適用規格 JIS H 8641	適用規格 JIS H 8641
HDZ 35 (付着量 : 350g/m ² 以上)	HDZT 49 (膜厚 : 49 μm 以上)

の表示になります。

JIS H 8641(溶融亜鉛めっき)

この規格は、素材(鋼材、鋼材加工品、鋳鍛鋼品及び鋳鉄品)に防食の目的で施す溶融亜鉛めっきの有効面の品質について規定したものです。

【改正の理由】

JIS H 8641:2007(旧規格)では、めっきの要求品質特性を硫酸銅試験の試験回数(めっきの種類が「1種」に適用)又は付着量試験による付着量(めっきの種類が「2種」に適用)と規定し、受渡当事者間の協定によって膜厚から換算して付着量を求めることも許容していますが、対応国際規格(ISO 1461:2009)では、要求品質特性を膜厚とし、膜厚計によって測定する方法を主としています。現在では、膜厚計の測定精度は十分信頼でき、使用方法も簡便であるため、めっき皮膜を膜厚で管理する方法が広く普及しています。

このような市場の実態を考慮し、今回の改正では、めっき皮膜の規定を膜厚による方法に変更し、対応国際規格に整合させました。また、溶融亜鉛めっきの品質を確認する試験方法は、この規格から分離し、JIS H 0401(溶融亜鉛めっき試験方法)に統合しました。

是非ともお引き合い、お待ちしております

※ 材質やサイズ等詳細は営業担当までお問い合わせ下さい。

JIS H 0401(溶融亜鉛めっき試験方法)

この規格は、素材に施した溶融亜鉛めっきの試験方法について規定したものです。

【改正の理由】

JIS H 8641 が改正され、めっき皮膜の要求品質特性が付着量から膜厚に変更されたことに伴い、膜厚計を用いた膜厚試験方法を新たに規定しました。また、JIS H 8641 から密着性についての規定が削除されたため、この規格からも密着性試験方法を削除しました。

表 1- 種類の記号及び膜厚 (JIS H 8641 の表 1 及び表 2 参照)

種類の記号	膜厚 (μm)	適用例 ^{a)} (参考)
HDZT35	35 以上	厚さ 5mm 以下の素材、直径 12mm 以上のボルト・ナット、厚さ 2.3mm を超える座金などで、遠心分離によって亜鉛のたれ切りをするもの又は機能上薄い膜厚が要求されるもの
HDZT42	42 以上	厚さ 5mm を超える素材で遠心分離によって亜鉛のたれ切りをするもの又は機能上薄い膜厚が要求されるもの
HDZT49	49 以上	厚さ 1mm 以上の素材、直径 12mm 以上のボルト・ナット及び厚さ 2.3mm を超える座金
HDZT56	56 以上	厚さ 2mm 以上の素材
HDZT63	63 以上	厚さ 3mm 以上の素材
HDZT70	70 以上	厚さ 5mm 以上の素材
HDZT77	77 以上	厚さ 6mm 以上の素材

注^{a)} 適用例の欄に示す厚さ及び直径は、公称寸法による。

表 2- 膜厚と付着量との関係 (JIS H 8641 の解説表 1 参照)

膜厚 [この規格]		付着量 [旧規格 ^{a)}]		
種類の記号	膜厚 (μm)	種類	記号	付着量 (g/m ²)
HDZT35	35 以上	1 種 A	HDZ A	250 以上 ^{b)}
HDZT42	42 以上	1 種 B	HDZ B	300 以上 ^{b)}
HDZT49	49 以上	2 種 35	HDZ 35	350 以上
HDZT56	56 以上	2 種 40	HDZ 40	400 以上
HDZT63	63 以上	2 種 45	HDZ 45	450 以上
HDZT70	70 以上	2 種 50	HDZ 50	500 以上
HDZT77	77 以上	2 種 55	HDZ 55	550 以上

注^{a)} 旧規格では、2 種について付着量を規定している。
注^{b)} 1 種の付着量は、HDZ A の平均めっき膜厚の平均値 (35 μm) 又は HDZ B の平均めっき膜厚の平均値 (42 μm) に、めっき皮膜の密度を 7.2g/cm³ として、これに乗じた値を示す。

詳細については、営業担当にお問い合わせ下さい。



株式会社 三笠・鋌螺

